

千葉県における自殺の統計分析 報告書

平成 20 年 5 月
千葉県衛生研究所

目次

I	目的	3
II	方法	3
III	結果	4
1	千葉県における自殺者の年次推移的	4
2	性・年齢階級別にみた自殺死亡	7
3	地域別にみた自殺死亡	13
4	警察統計	16
5	自殺の背景にあると考えられる要因	18
IV	統計表目次	20
V	参考資料	21

I 目的

昨今、硫化水素による自殺の報道でも周知のとおり、全国の自殺問題に対する関心が高まっている。全国の自殺者数は平成 10 年を境に急増し毎年 3 万人前後の高い水準で推移している。千葉県でも全国と同様に平成 10 年に急増し、毎年 1, 300 人前後で推移しており、平成 18 年の死亡原因の第 6 位となっている。

このような状況において、自殺対策を有効かつ効果的に展開して行くための活用資料の一つとして、千葉県における自殺の基礎データの統計解析を行った。

II 方法

千葉県の自殺の現状とその関連要因の把握のため、既存の統計資料を用いてデータの整理を行なうと共に、年齢調整死亡率、標準化死亡比を算出した。

1) 用いた統計資料

(1) 人口 (H13~H18)

国：統計局発行 「推計人口年齢 (5 歳階級), 男女, 月別人口-総人口, 日本人人口」
(H13~H18 の 10 月 1 日)

県及び市町村：千葉県総合企画部統計課 「千葉県年齢別・町丁字別人口調査における登録人口」
(H13~H18)

(2) 自殺死亡数

国：厚生労働省人口動態調査 「死亡数, 性・年齢 (5 歳階級)・死因 (死因簡単分類) 別」
(H13~H18)

県：「千葉県衛生統計年報」 (H13~H18)

市町村：千葉県健康福祉部健康福祉指導課 「人口動態調査」 (H13~H18)

(3) 警察統計

警察庁生活安全局地域課：平成 18 年中に置ける自殺の概要資料 平成 19 年 6 月
<http://www.npa.go.jp/toukei/chiiki8/20070607.pdf>

千葉県警察本部：自殺の概要

(4) 藤田利治：自殺死亡統計：地域での自殺予防対策のために (平成 17 年度厚生労働科学研究補助金 (こころの健康科学研究事業)「自殺の実態に基づく予防対策の推進に関する研究」 <http://www.ncnp.go.jp/ikiru-hp/genjo/toukei/index.html>

(5) 内閣府：平成 19 年度版「自殺対策白書」

<http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/whitepaper/w-2007/html/index.html>

(6) 千葉県健康福祉部健康増進課：「平成 17 年度 生活習慣に関するアンケート調査報告書」 平成 18 年 3 月

(7) 千葉県健康福祉部健康づくり支援課：「平成 19 年度 生活習慣に関するアンケート調査」 平成 20 年 3 月

(8) 総務省統計局：労働力調査 都道府県別結果「モデル推計による都道府県別結果 完全失業率」 <http://www.stat.go.jp/data/roudou/pref/zuhyou/lt06.xls>

2) 年齢調整死亡率・標準化死亡比の算出

千葉県、県保健所管内別、市町村別の標準化死亡比、年齢調整死亡率の算出では、平成 13 年~15 年、16 年~18 年の各 3 ヶ年分けて求めた。死亡数、人口とも 3 ヶ年の合計数を用い、SMR 算出の基準人口集団の年齢階級別死亡率は当該年分 (3 年分) の全国人口値を、年齢調整死亡率の基準人口は昭和 60 年モデル人口を用いた。

III 結果

1 千葉県における自殺者の年次推移

(1) 自殺死亡（総数）の年次推移

昭和50年（1975年）以降の全国の自殺死亡数の推移をみると、平成10年の急増の前に昭和61年をピークとする山があることがわかる。この時は昭和61年をピークとして死亡数が減少し、以前とほぼ同じ水準に戻ったが、平成4年頃から増加に転じ、平成10年に急増して死亡数が3万人を超えた。その後は若干の減少傾向がみられたが平成14年、15年は増加に転じ、平成15年は過去最高となった。平成15年以降は減少に転じている、死亡者数は3万人前後で推移している。

千葉県も全国と同様の傾向であり、平成9年の924人から平成10年は約300人（1.33倍）増加して1,223人となった後、横ばい傾向にある。平成15年は過去最高の1,326人を数え、近年は1,300人前後で推移している。

男女別にみると、男性は全国と同様の傾向を示し、平成10年に大きく増加した後は増減を繰り返しながらもほぼ横ばい状態であるが、女性では平成13年以降、増加が続いており、全国の動きとは異なっている。

図1 自殺死亡数の年次推移（総数）

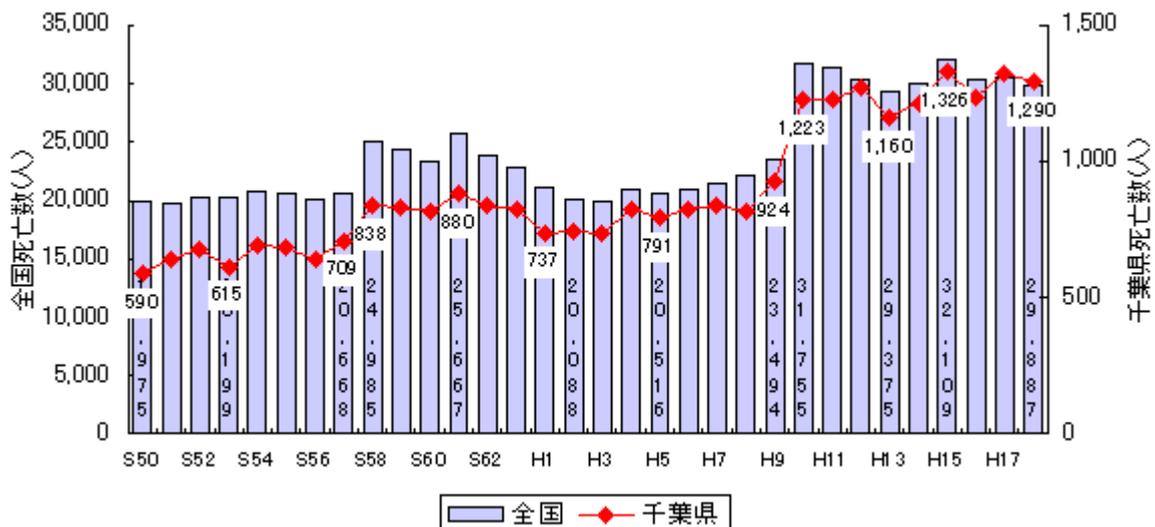


図2 自殺死亡数の年次推移（男）

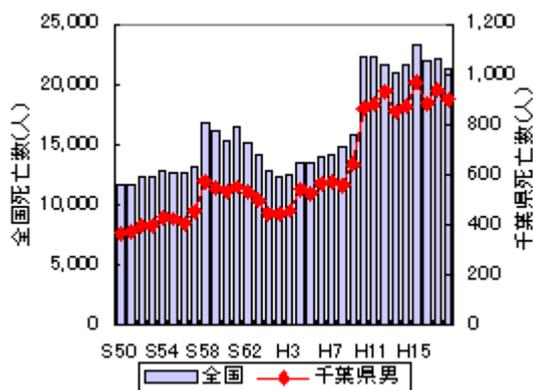
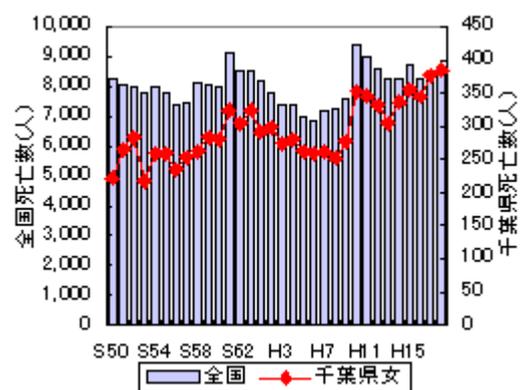
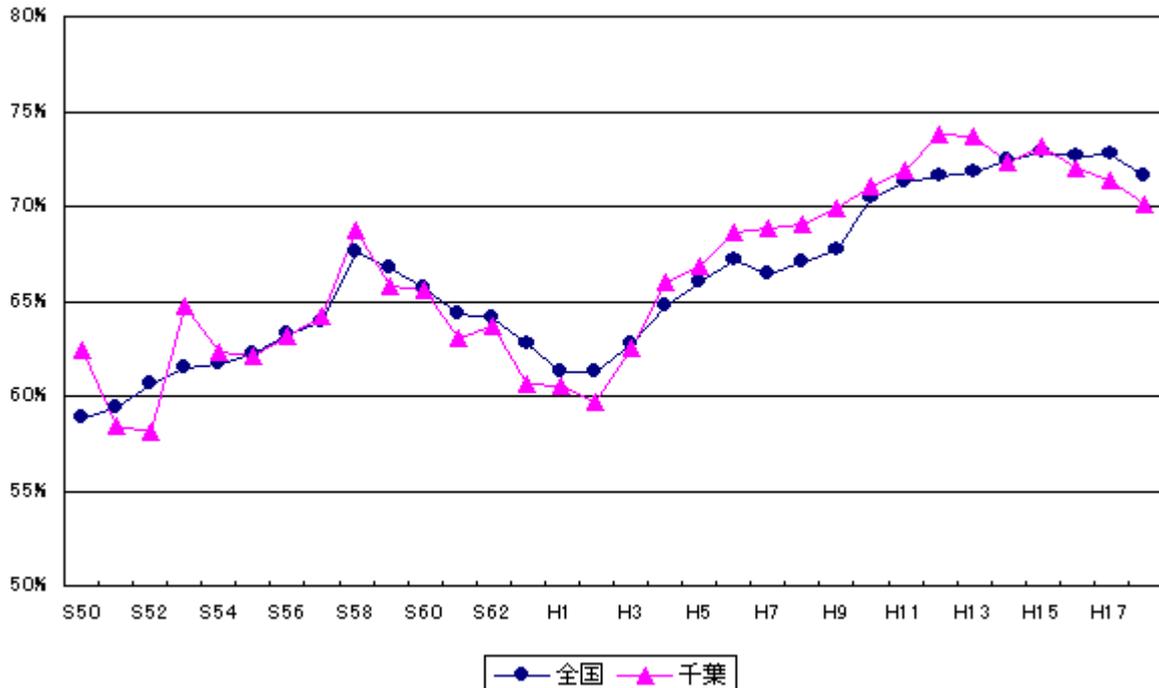


図3 自殺死亡数の年次推移（女）



自殺者に占める男性の割合の推移をみると、全国、千葉県共に自殺者数が急増した平成 10 年に男性の占める割合が 7 割を超え、以後、平成 18 年まで男性が 7 割を超える状態が続いている。千葉県と全国を比較すると、昭和 62 年頃までは全国と千葉県はほぼ同じ割合で推移していたが、平成 4 年から平成 14 年までは男性の自殺者割合が全国値を数%上回っていた。しかし、平成 15 年からは男性の占める割合が全国よりも低くなり、その割合は低下傾向にある。

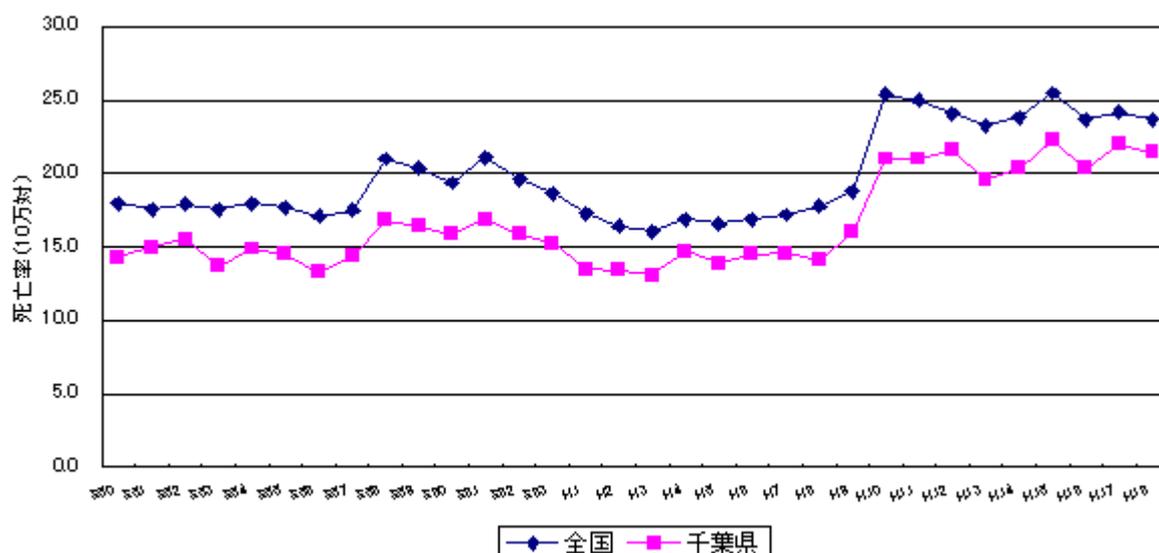
図 4 男性自殺者の割合の年次推移



(2) 自殺粗死亡率（総数）の年次推移

自殺粗死亡率の年次推移を見ると、全国では平成 10 年に山を形成した横ばい傾向にあり、千葉県も同様である。千葉県の自殺粗死亡率は全国より低い、近年、その差が縮まってきている。

図 5 自殺粗死亡率（10 万対）の年次推移



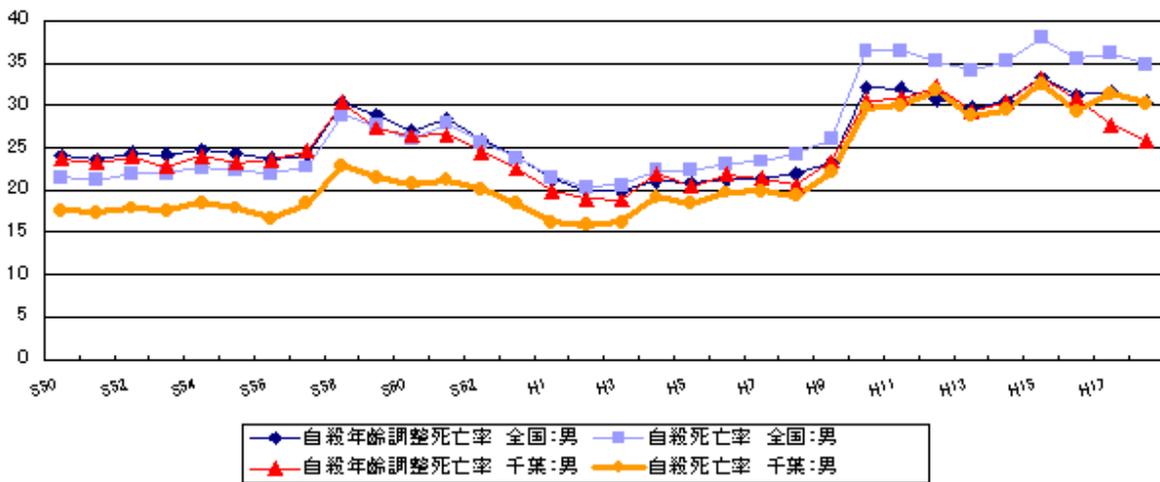
人口の年齢構成の変化の影響を排除した自殺年齢調整死亡率をみると、全国値は男女とも基準年となる昭和 60 年を境に、千葉県でも平成 10 年を境に自殺死亡率と自殺年齢調整死亡率とが逆転しており、少子高齢化の進展による自殺死亡率の上昇傾向が伺える。

男性については、昭和 58 年をピークとする昭和 60 年前後の山と平成 10 年以降の山を形成している。自殺年齢調整死亡率の全国値は、平成 9 年の 23.2 に対し 10 年は 32.1 と大きく上昇し、自殺者数がこれまでで最多の 15 年では 33.2、18 年は 30.3 と高い水準が続いている。千葉県は、全国と同じ値で推移していたが、平成 16 年以降は全国が横ばいに対して千葉県では低下しており、平成 18 年は 25.7 であった。

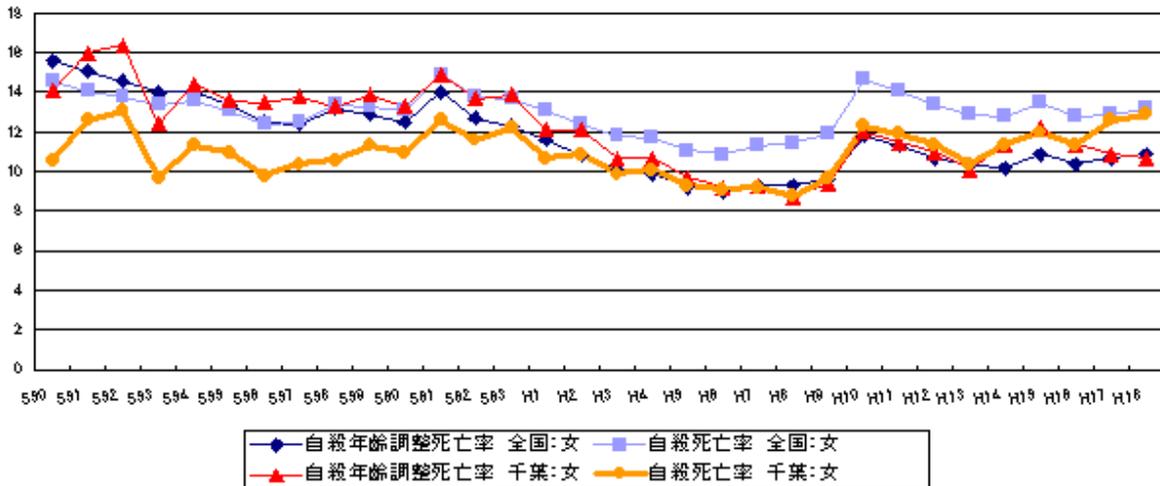
女性の自殺年齢調整死亡率については、平成 10 年に急増するまでは全体的に低下傾向で推移し、平成 9 年から 10 年にかけては大きく上昇しているが、男性ほどの大きな変動はみられていない。千葉県は全体に見ると全国値より少し高い値で推移しているが、平成 18 年は全国が 10.9 に対して 10.7 とわずかに低い値であった。

図 6 粗死亡率と年齢調整死亡率の年次推移（全国・千葉県）

（男）



（女）

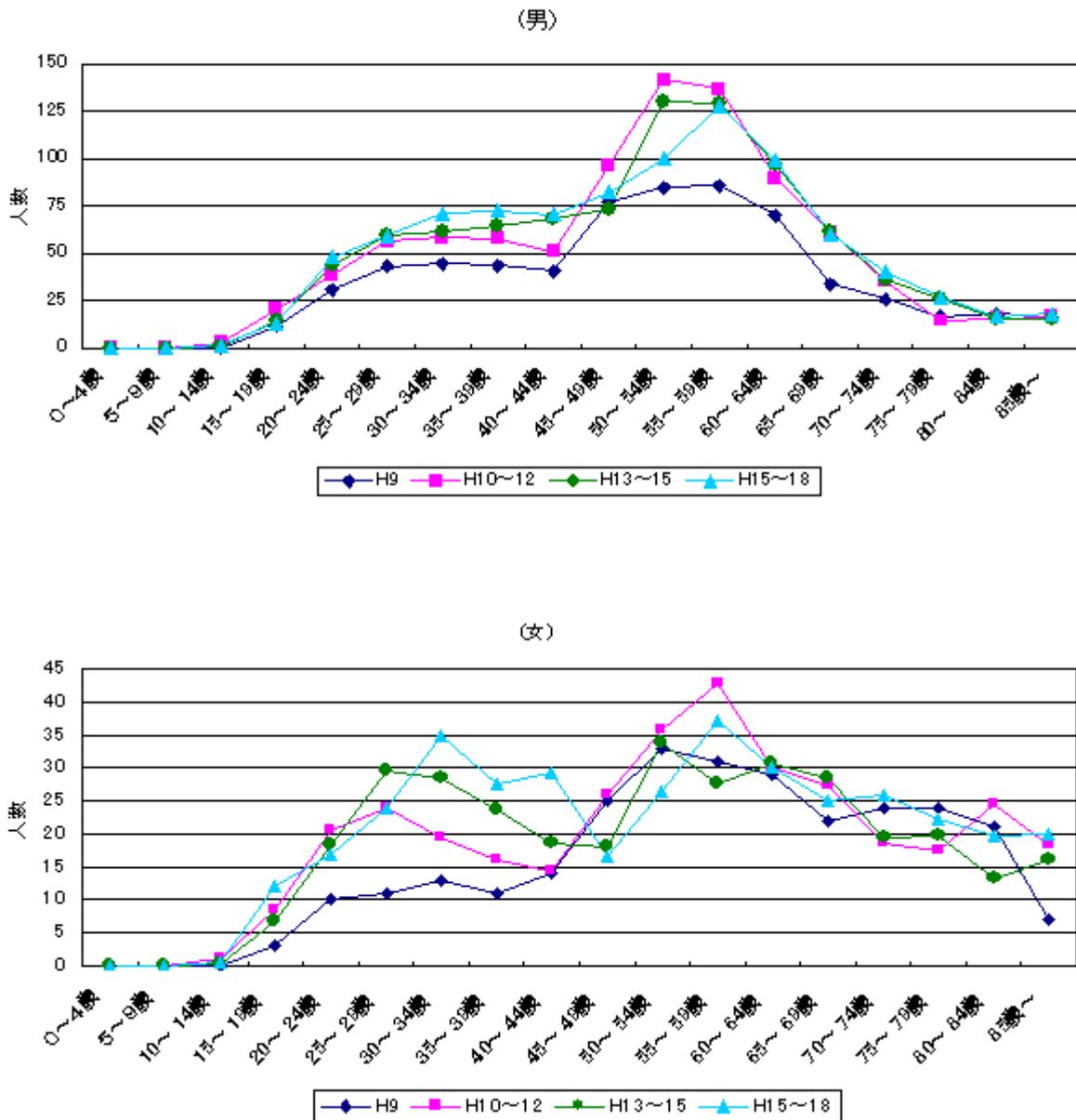


2 性・年齢階級別にみた自殺死亡

(1) 死亡者数

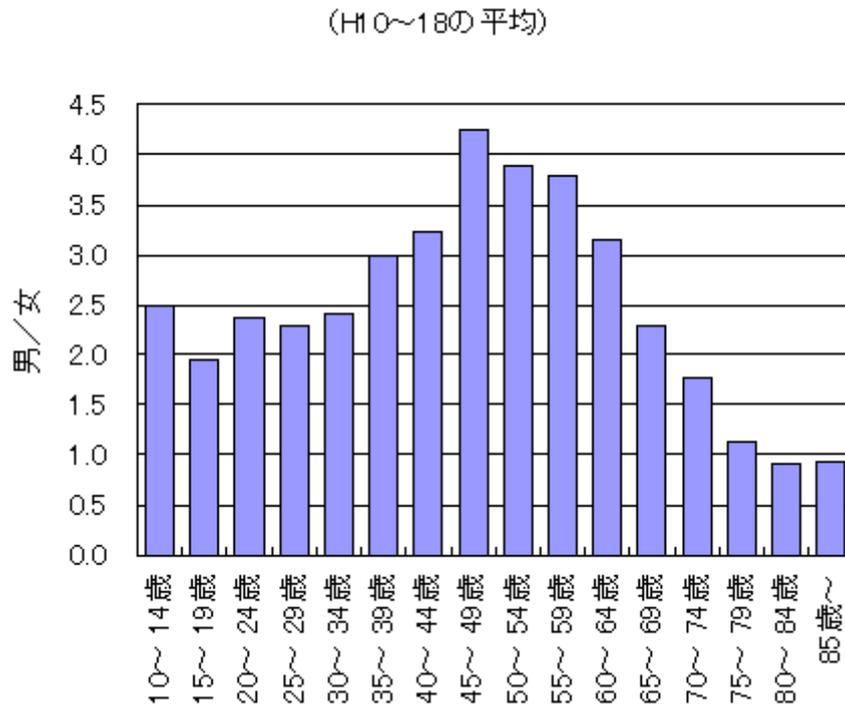
性・年齢階級別の自殺死亡数をみると、男性では10代後半から増加し、25～34歳は横ばいとなった後に再び増加して45～59歳でピークとなり、その後は減少するというカーブを描いている。女性では25～34歳をピークにする山と50～59歳をピークとする山がみられ、男性とは異なるカーブを描いている。

図7 年齢階級別平均死亡者数（千葉県）



自殺死亡数の男女比は総数で見ると男性が女性の約 2.6 倍であるが、年齢階級別にみると 35～64 歳は男性が女性の 3 倍以上と男性の死亡数が全体の平均よりも多くなっていて、年齢が高くなると男女差は減少し、75 歳以上では男女差はほとんどなくなっている。

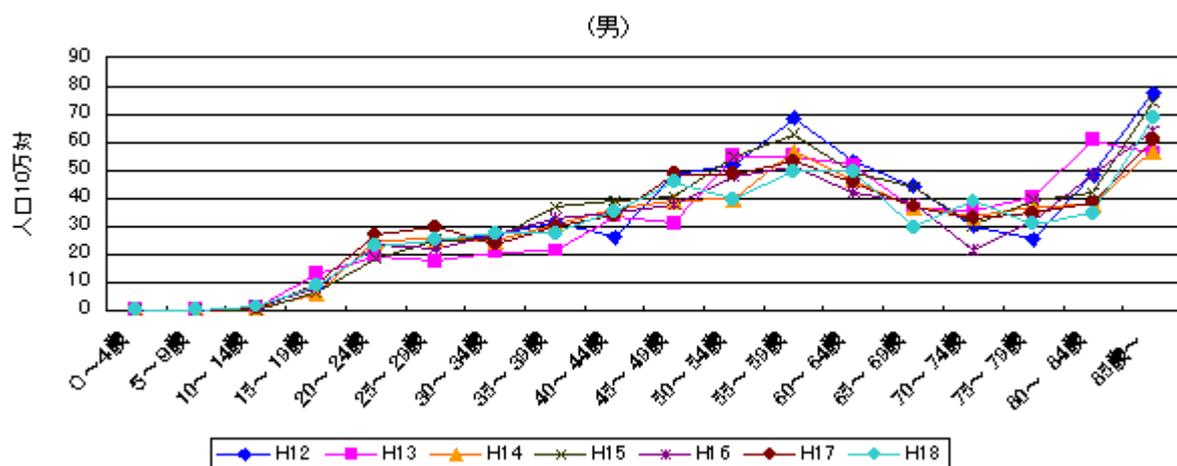
図8 自殺死亡数の年齢階級別男女比（千葉県）



(2) 死亡率

千葉県の年齢階級別自殺死亡率について、平成 12 年以降の年次推移をみると、50 歳代から 60 歳代に山を形成し、女性は加齢と共に死亡率が増加している。年齢階級別死亡率を全国と千葉県で比較すると、死亡率は男性の 45 歳～74 歳が全国より低かった他は全国値と大差はなく、また、年次推移ではいずれの年代も男女とも全国とほぼ同様であった。

図9 全国及び千葉県の年齢階級別粗死亡率の年次推移



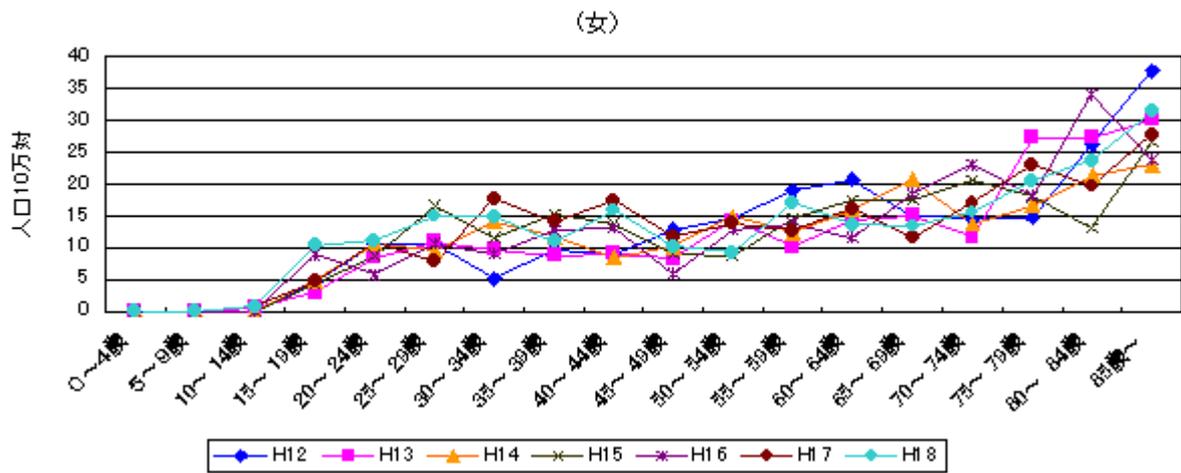
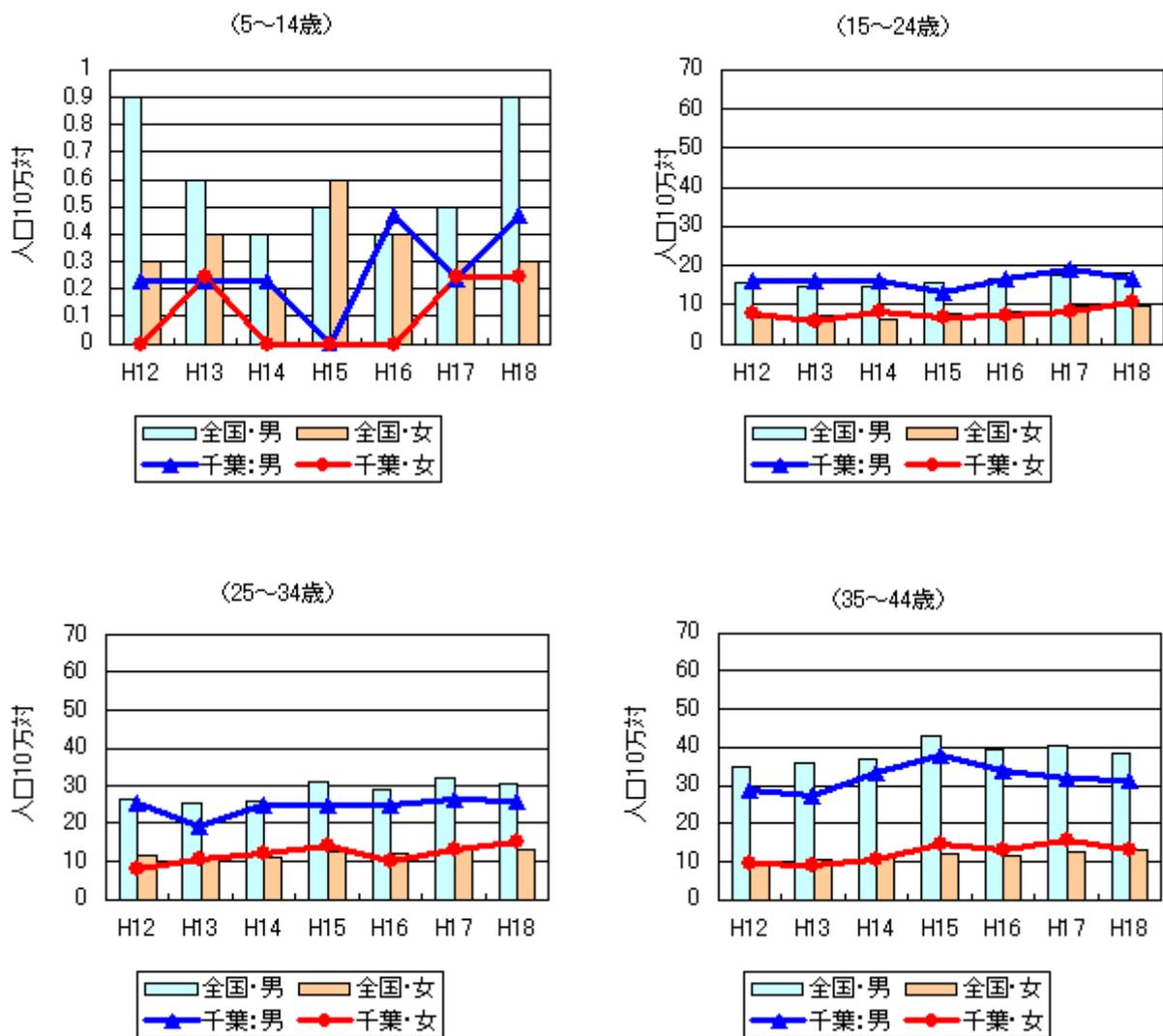
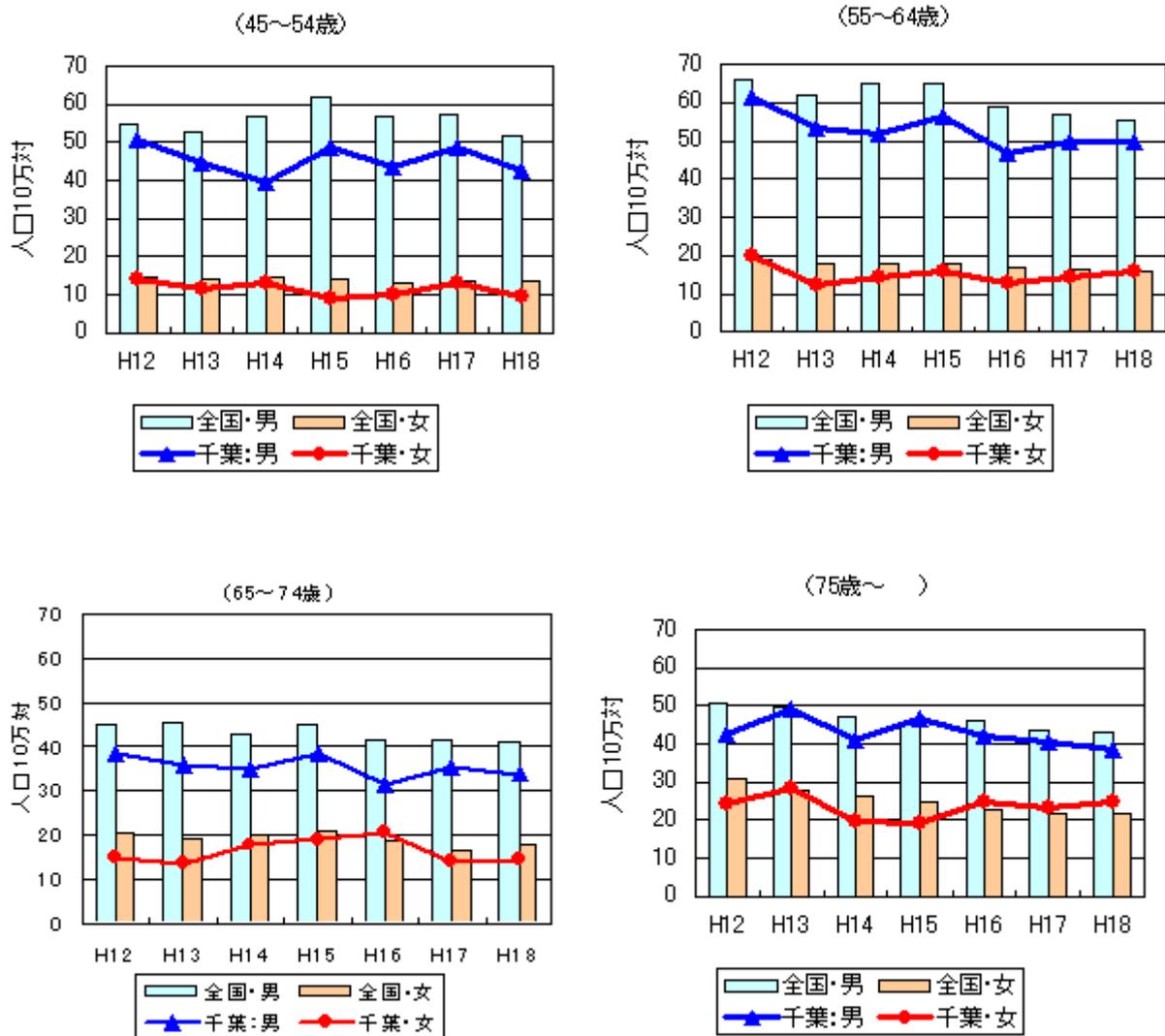


図 10 全国及び千葉県の年齢階級別粗死亡率の年次推移

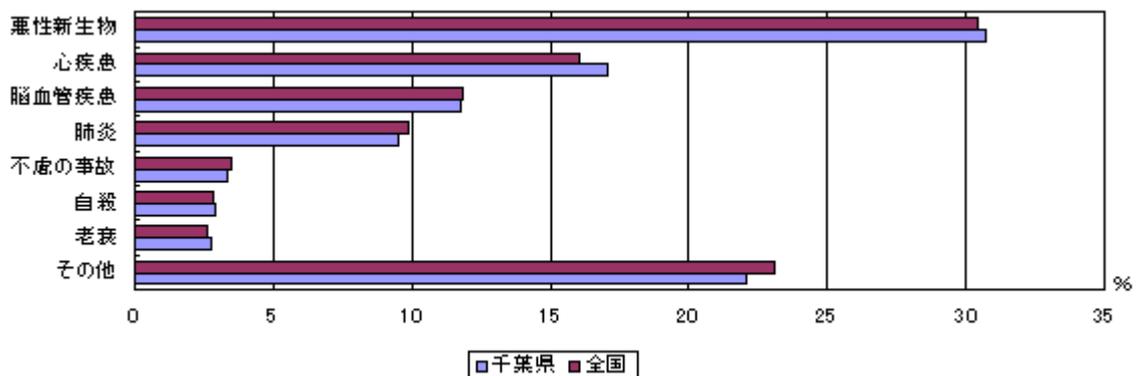




(3) 主な死因別順位

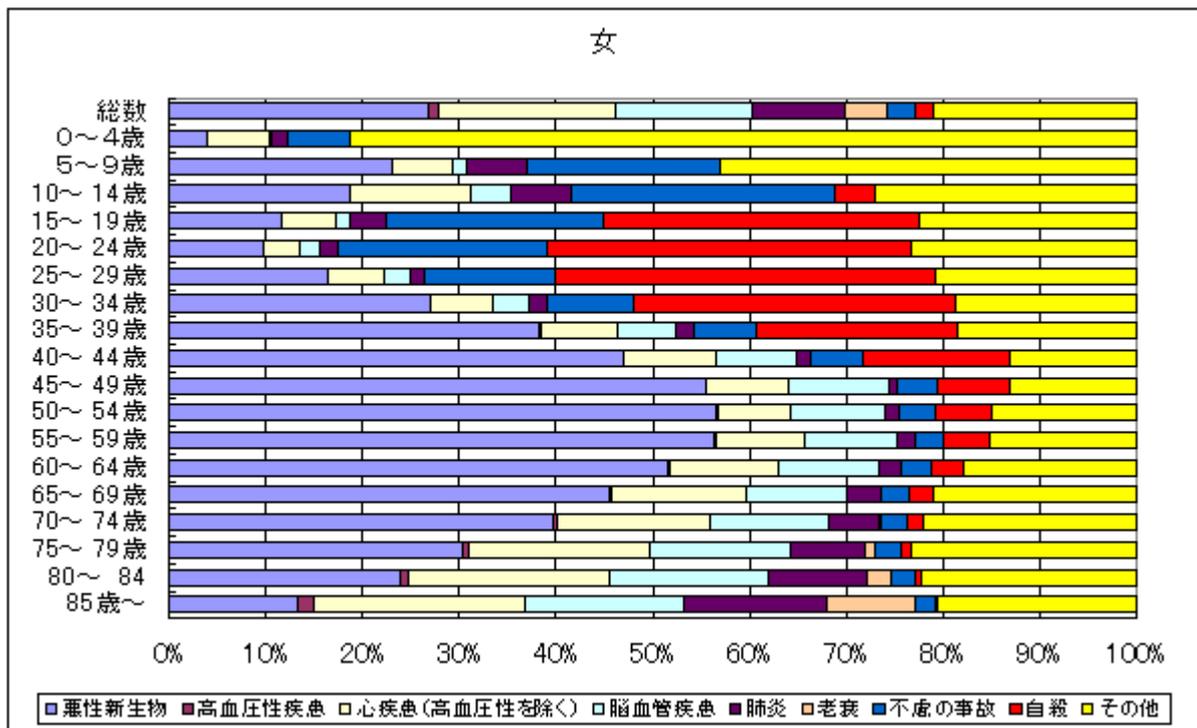
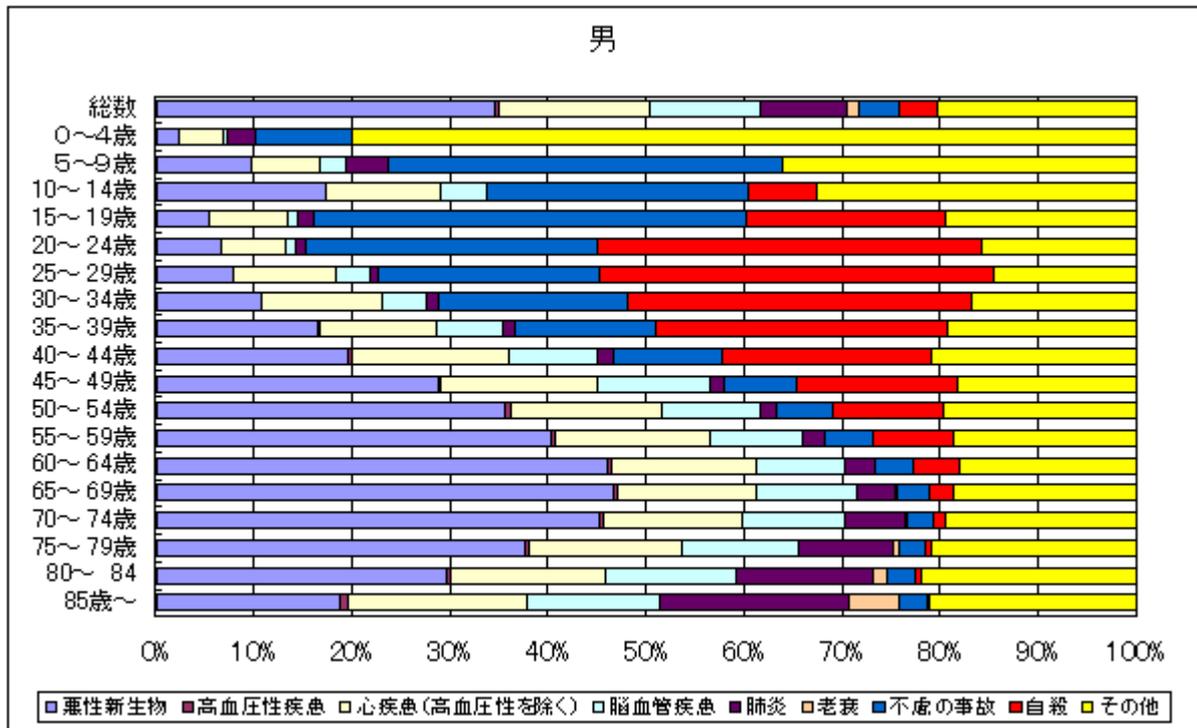
平成 18 年の死因に占める自殺の割合は全国が 2.8%、千葉県が 2.7%であった。男女別に見ると、千葉県では男性 3.7%、女性 1.9%であり、いずれも全国とほぼ同じであった。

図 11 平成 18 年の全国および千葉県の主な死因割合 (総数)



平成 14 年から 18 年の合計について年齢階級別死因別死亡割合をみると、男性では 20～44 歳、女性では 15～34 歳で自殺の死因割合が高く、男女とも 20 歳代では死因の約 4 割を占めていた。

図 12 千葉県の年齢階級別死因割合（平成 14 年～18 年合計）



性・年齢階級別死因順位では、総数では男性が6位、女性が7位でほぼ全国と同様の状況である。過去5年間の状況では、男女とも15～44歳の死因の1位または2位が自殺であり、10～14歳については、男性は千葉県の自殺死亡順位が全国より下位であったが、女性では全国とほぼ同じ順位になっている。

表1 性・年齢階級別死因順位（自殺）

		国					県				
		H14	H15	H16	H17	H18	H14	H15	H16	H17	H18
男	総数	6	6	6	6	6	6	5	6	6	6
	10-14歳	3	4	3	3	3	5	9	4	5	5
	15-19歳	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2
	20-24歳	2	1	1	1	1	2	2	1	1	1
	25-29歳	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1
	30-34歳	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1
	35-39歳	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1
	40-44歳	1	1	1	1	1	2	1	1	2	1
	45-49歳	2	2	2	2	2	3	2	3	2	3
	50-54歳	3	3	3	3	3	5	3	3	3	3
	55-59歳	3	3	3	3	4	5	4	4	4	4
	60-64歳	4	4	4	4	4	5	4	4	4	4
女	総数	8	8	8	8	8	7	7	7	8	7
	10-14歳	6	3	3	4	3	—	2	—	3	3
	15-19歳	2	1	1	1	1	2	2	1	2	1
	20-24歳	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	25-29歳	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	30-34歳	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2
	35-39歳	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	40-44歳	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	45-49歳	3	2	3	2	2	3	3	4	4	4
	50-54歳	4	4	4	4	4	3	5	4	4	4
	55-59歳	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	60-64歳	4	4	4	4	4	5	4	4	4	4

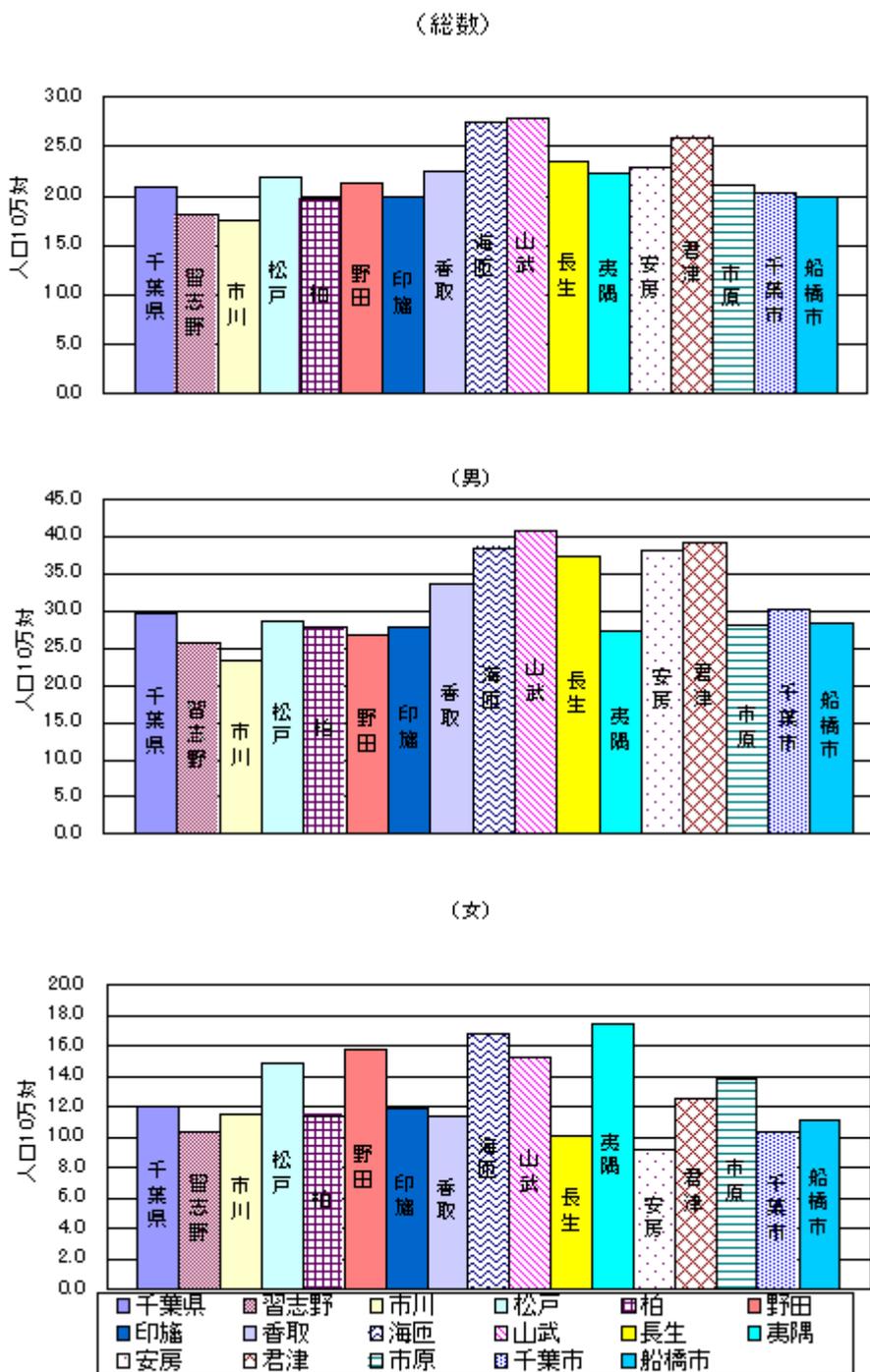
—は10位以下

3 地域別にみた自殺死亡

(1) 保健所管内別の比較

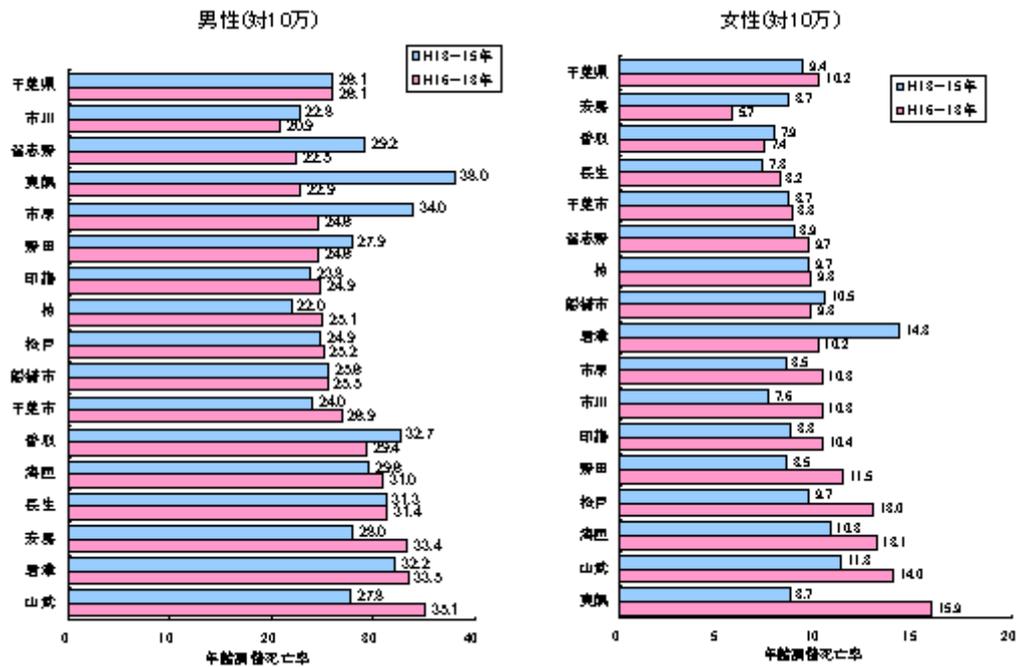
県内保健所別の自殺粗死亡率では、年度によりばらつきはあるものの、平成16年から平成18年の3年間の合計でみると、全体では山武、海匝、君津管内が高率を示していた。性別でみると、県全体を上回っていたのは男性では山武、海匝、君津、長生、安房、香取管内、女性では夷隅、海匝、野田、山武、松戸、市原管内であった。男性は都市部よりも郡部で高かったが、女性ではそのような傾向はみられなかった。

図13 千葉県の保健所別自殺粗死亡率（平成16年～18年合計）



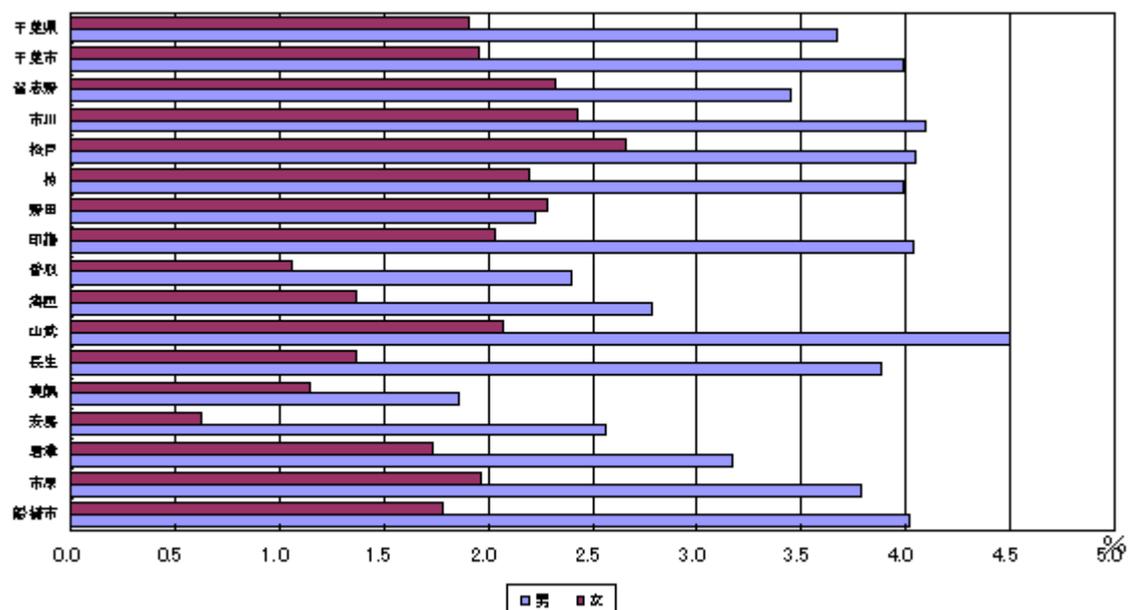
平成 13 年から 15 年までの 3 年間と平成 16 年から 18 年までの 3 年間に分けて、年齢調整死亡率を比較すると、男性では習志野、夷隅、市原は平成 13～16 年より平成 16～18 年は大きく低下し、安房、山武は増加が大きかった。女性では全体には平成 13～15 年に比べて値が増加したところが多く、中では夷隅の増加がもっとも大きかった。

図 14 保健所別の自殺年齢調整死亡率の平成 13～16 年と平成 16 年～18 年の比較



自殺死亡の総死亡数に占める割合を保健所別にみると、男性では 1.9%（夷隅）～4.5%（山武）、女性では 0.6（安房）～2.7%（松戸）に分布し、割合の男女比は 1.0～4.0 までの開きがあった。

図 15 保健所別の平成 18 年度自殺死亡の死因割合の比較



(2) 市町村別の比較

平成16年から平成18年の自殺死亡数を合計した値を用いて市町村別の調整死亡率を算出し、市町村の比較を行なった。自殺年齢調整死亡率の最も高い値は男性63.8、女性31.5、最も低い値は男性11.6、女性0であった。年齢調整死亡率のベスト5、ワースト5の自治体名を見ると、ワースト5の中には男女ともに共通の自治体が見られたが、ベスト5では男女とも値が県内5以内に含まれる自治体はみられなかった。

表2 平成16～18年度の合計でみた市町村別自殺年齢調整死亡率の順位

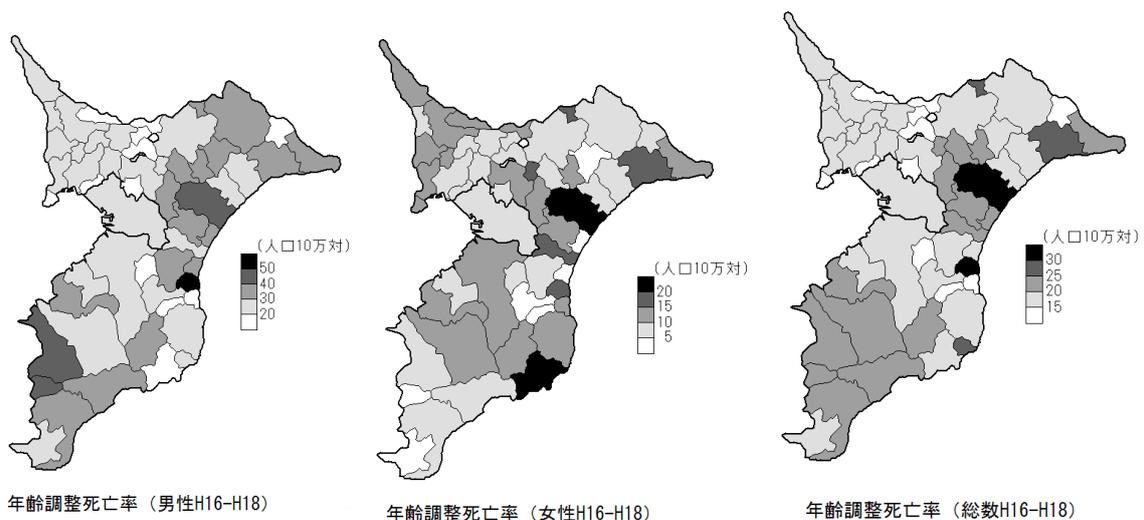
(1) ベスト5

順位	男		女	
	市町村名	年齢調整死亡率 (人口10万対)	市町村名	年齢調整死亡率 (人口10万対)
1	勝浦市	11.6	白子町	0
2	東庄町	13.2	多古町	0.8
3	本埜村	13.6	睦沢町	1.1
4	一宮町	13.9	九十九里町	2.6
5	長柄町	15.4	鋸南町	2.8

(2) ワースト5

順位	男		女	
	市町村名	年齢調整死亡率 (人口10万対)	市町村名	年齢調整死亡率 (人口10万対)
1	長生村	63.8	御宿町	31.5
2	富津市	41.9	勝浦市	23.3
3	鋸南町	41.4	山武市	21.6
4	山武市	41.3	酒々井町	19.0
5	東金市	38.4	長生村	18.7

図16 平成16～18年度の合計でみた市町村別自殺年齢調整死亡率



4 警察統計

厚生労働省のまとめた人口動態統計と統計の取り方が異なるが、警察庁でまとめている「自殺の概要」からも千葉県の自殺の状況を検討した。

千葉県の自殺者の職業割合は全国より自営業者が少なく、管理職、主婦・主夫が多かった。自殺者の職別割合は平成 10 年以降は大きな変化はなく、無職者が最も多く約半数を占めている。ついで多いのは被雇用者であり、約 4 分の 1 を占めていた。

表 3 千葉県の自殺死亡数

	男	女	計	(参考)人口 動態の総数
平成 9 年	708	332	1,040	924
平成 10 年	949	386	1,335	1,223
平成 11 年	980	376	1,356	1,229
平成 12 年	1,021	376	1,397	1,269
平成 13 年	943	360	1,303	1,190
平成 14 年	960	399	1,359	1,212
平成 15 年	1,054	415	1,469	1,326
平成 16 年	969	411	1,380	1,231
平成 17 年	1,017	430	1,447	1,318
平成 18 年	950	444	1,394	1,290

図 17 平成 16 年～18 年の自殺者の職業別割合（全国・千葉県）

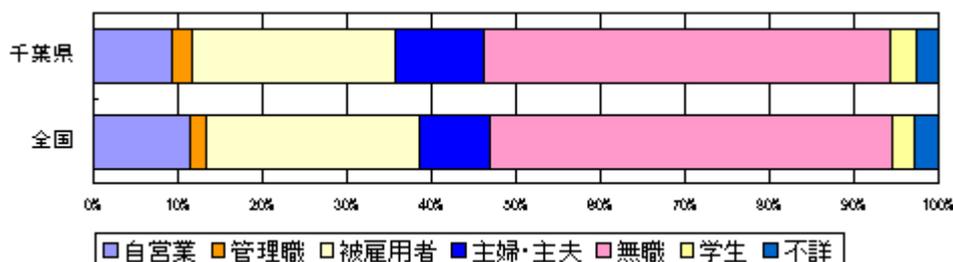
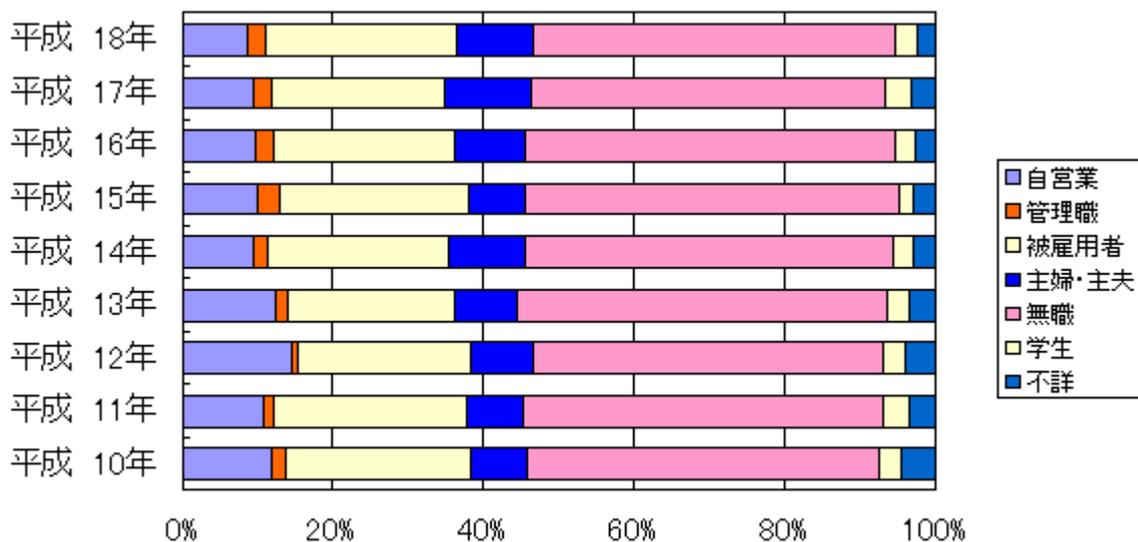


図 18 自殺者の職業割合の年次推移



原因・動機別の割合を全国と比べると、全国では健康問題が最も多く約半数を占めていたのに対して、千葉県では約25%と全国より健康問題が原因の自殺が少なく、その他の占める割合が多かった。千葉県全体で見ると、健康問題と経済生活問題で約半数を占めていた。経済生活問題が占める割合は平成15年度が最も多く27.4%であったが、平成18年度には20.6%となっている。

図19 平成16～18年の自殺者の動機・原因割合（全国・千葉県）

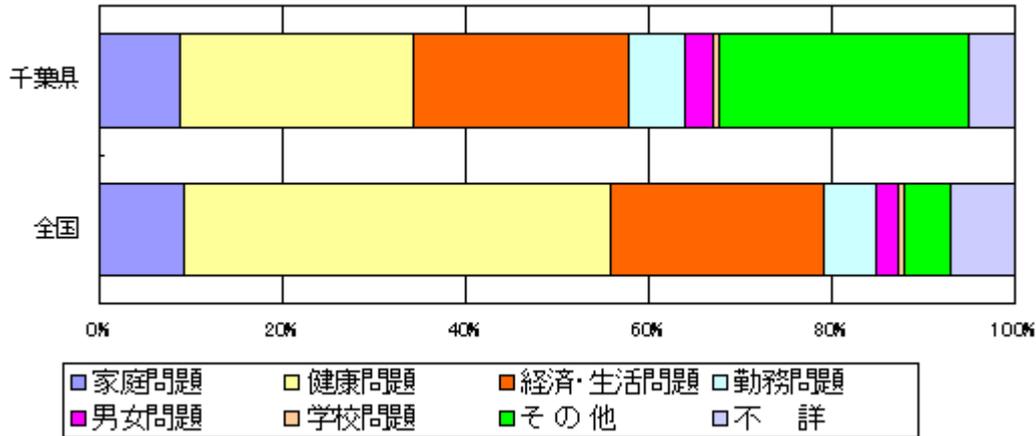
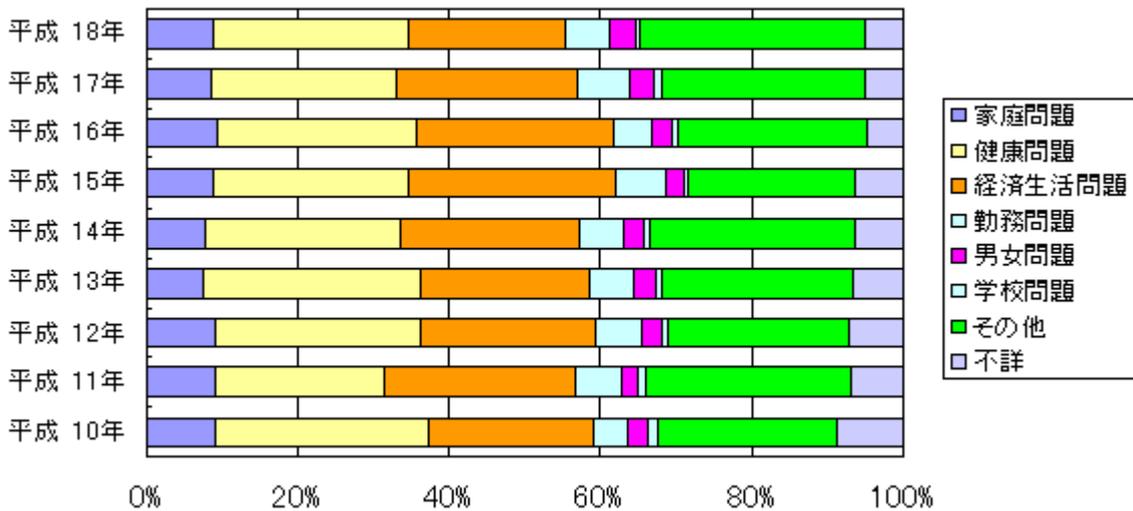


図20 千葉県自殺者の動機・原因割合の年次推移

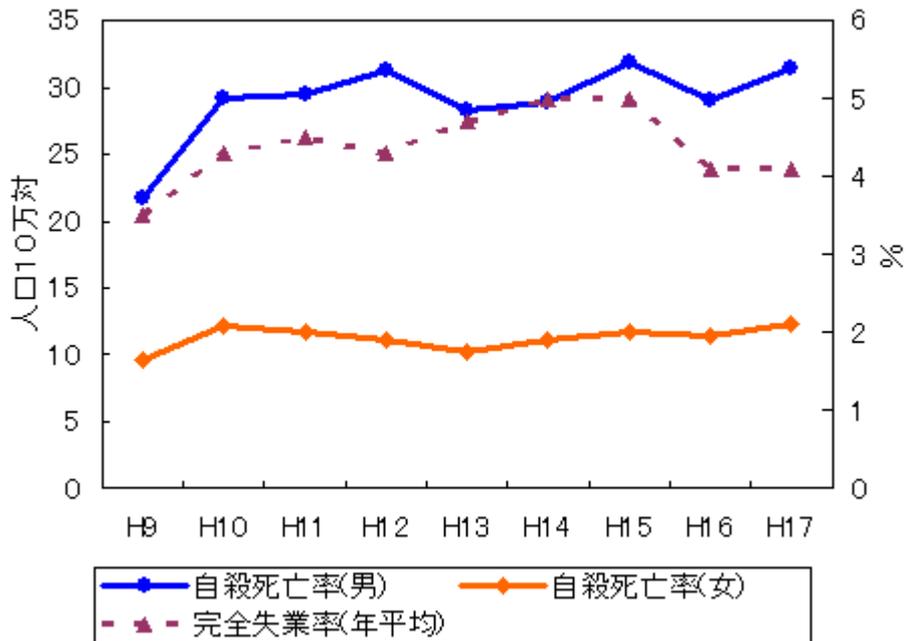


5 自殺の背景にあると考えられる要因

1) 完全失業率

経済的要因が自殺死亡の動機・原因に占める割合は高い。そこで、千葉県における完全失業率とそ死亡率の年次推移を見ると、完全失業率が急増した平成 10 年には男性の自殺粗死亡率も大きく増加し、失業率が過去最高となった平成 15 年は男性の自殺粗死亡率も過去最高となるというように、男性において完全失業率と自殺粗死亡率の動向には関連性がみられた。

図 21 完全失業率と粗死亡率の年次推移（千葉県）

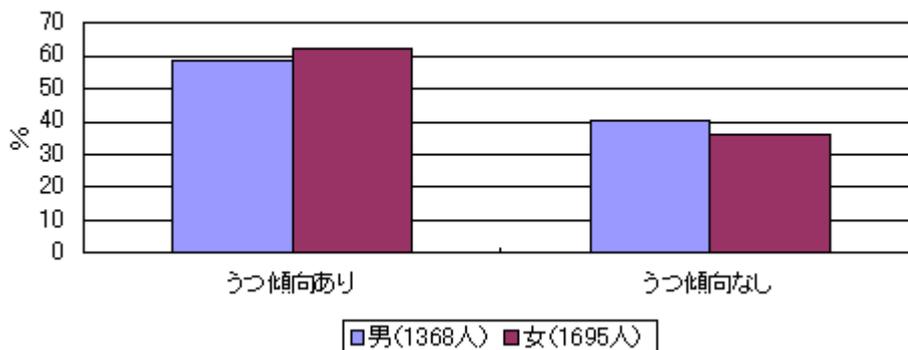


2) 健康状態

自殺の原因・動機では健康問題も大きな割合を占めている。うつ病やうつ状態が自殺の背景にある事が指摘されており、心の健康状態の悪化が自殺の背景にあることも予測される。

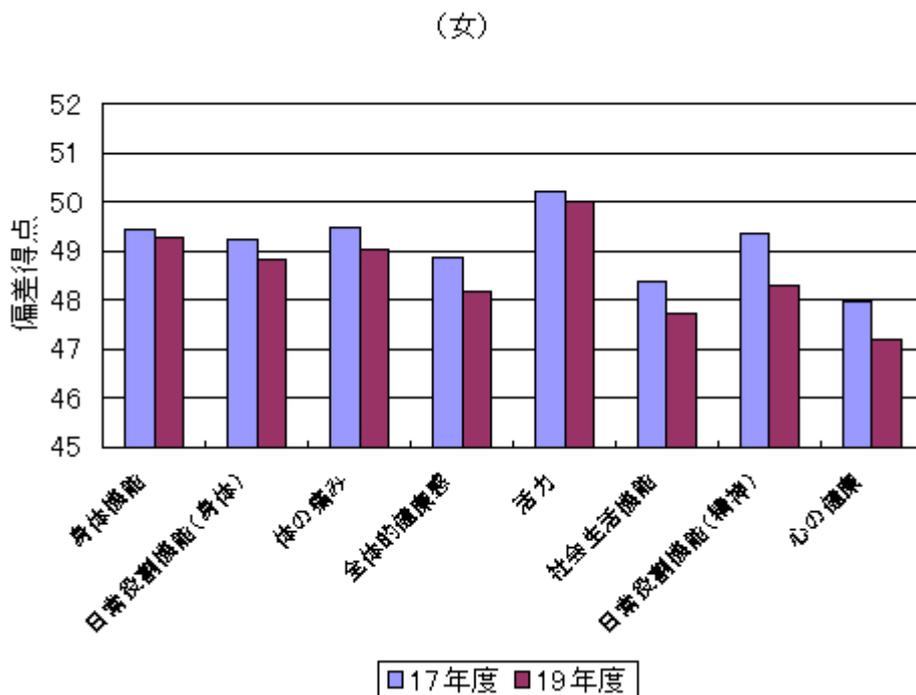
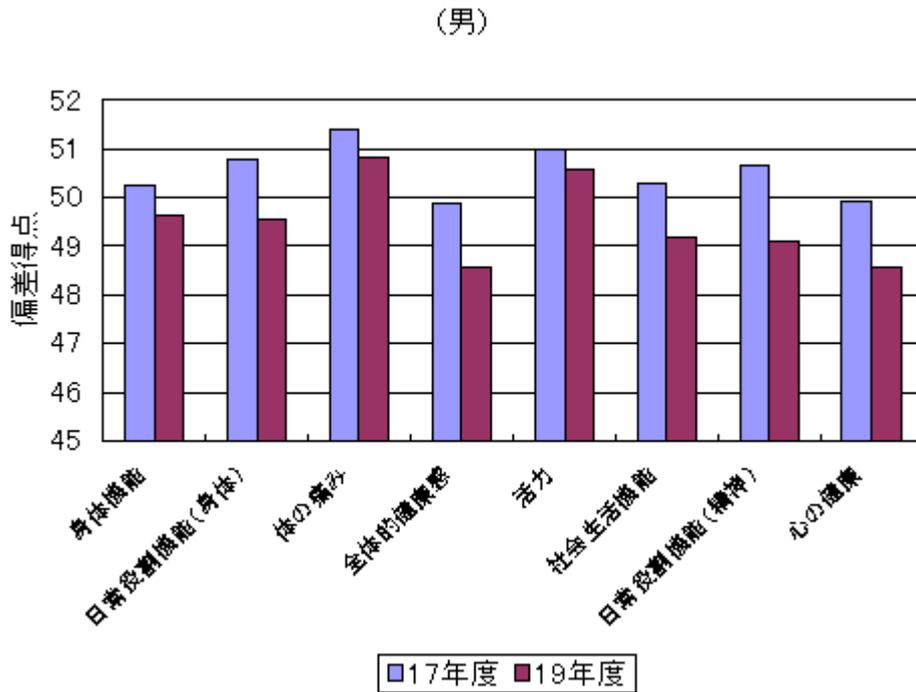
平成 17 年度の「生活習慣に関するアンケート調査」の中で実施した「こころの自己チェック」によるうつ傾向のスクリーニング結果でも、男女ともうつ傾向がある割合がうつ傾向がないと判定された割合を上回っていた。

図 22 こころの健康自己チェックによる「うつ状態」スクリーニング結果



県民に対する健康状態の調査として、平成 17 年の「生活習慣に関するアンケート調査」、平成 19 年の「県民健康基礎調査」を実施した。その中で用いた健康関連 QOL の測定 (SF8) の結果では、8つの領域に分けた健康関連 QOL において、各領域の国民標準値に対する偏差得点が平成 17 年度、平成 19 年度ともに全国平均 (50 点) よりも低い項目が多く、平成 19 年度の得点は平成 17 年度と比べて男女とも日常役割機能 (精神)、心の健康の領域において有意に低下していた。

図 23 健康関連 QOL の得点

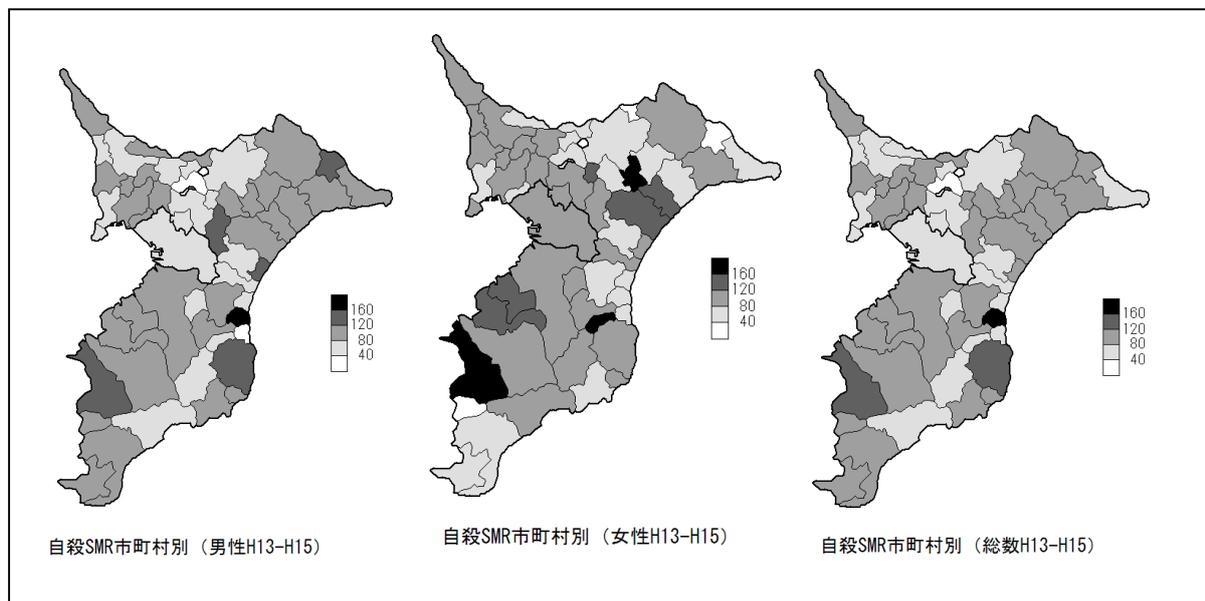


参考資料

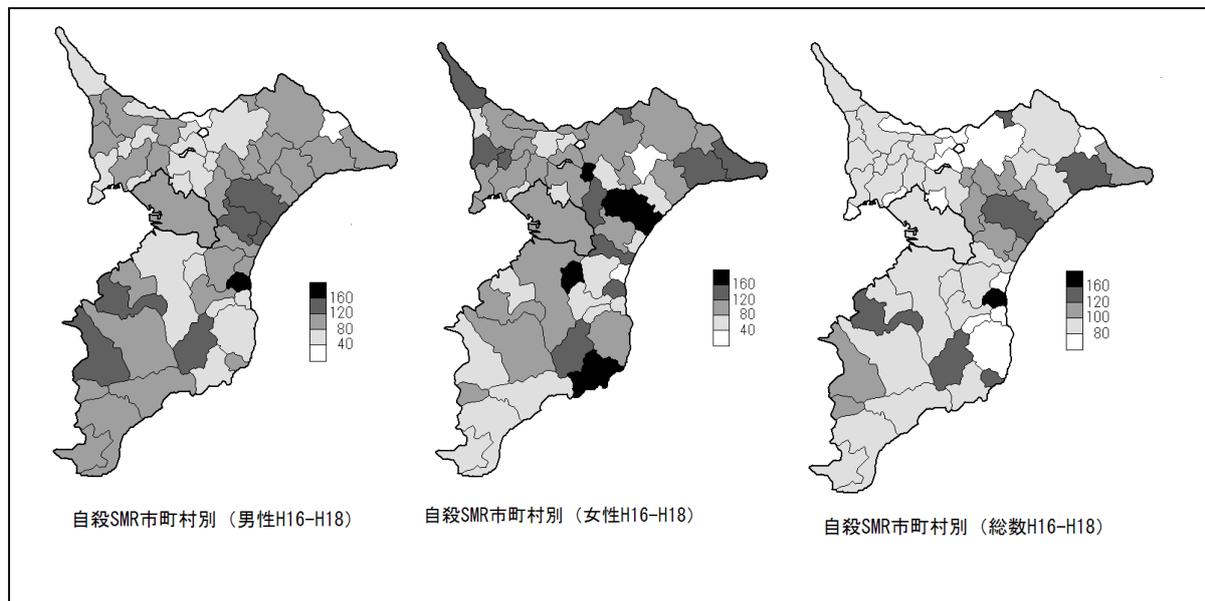
- 1 市町村別自殺 SMR マップ
- 2 市町村別自殺年齢調整死亡率マップ
- 3 市町村別総死亡年齢調整死亡率マップ

1 市町村別自殺 SMR

平成13～15年

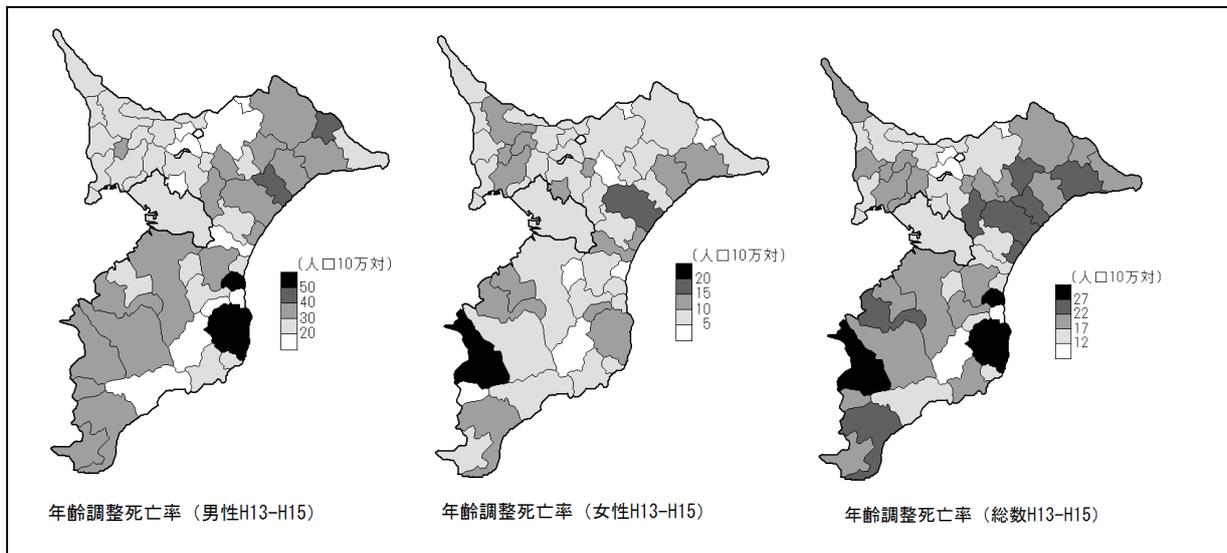


平成16～18年

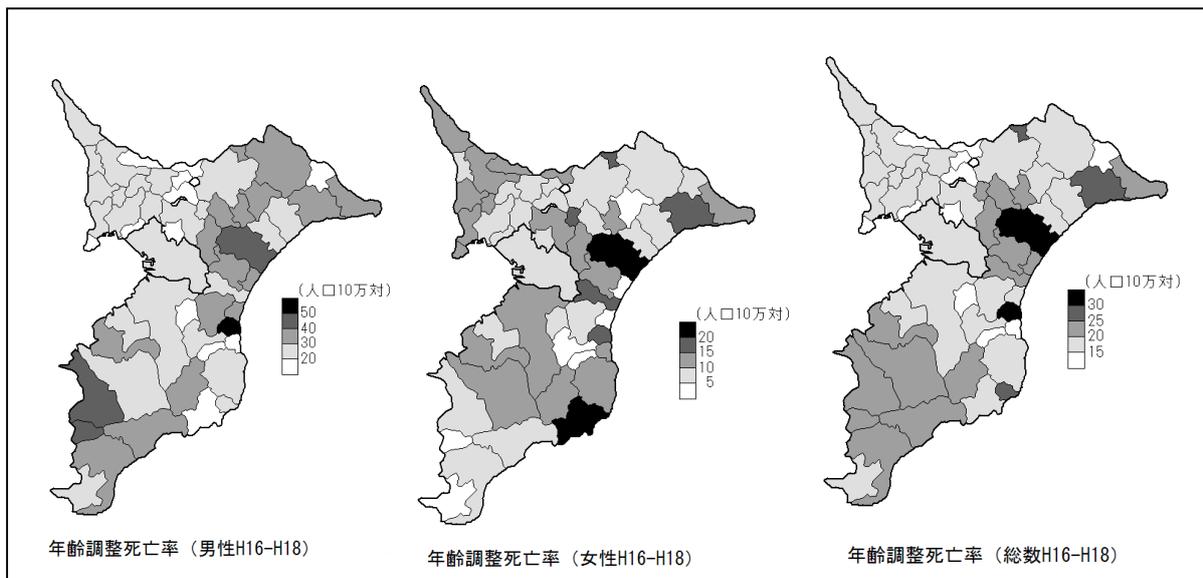


2 市町村別年齢調整死亡率（自殺）

平成13～15年

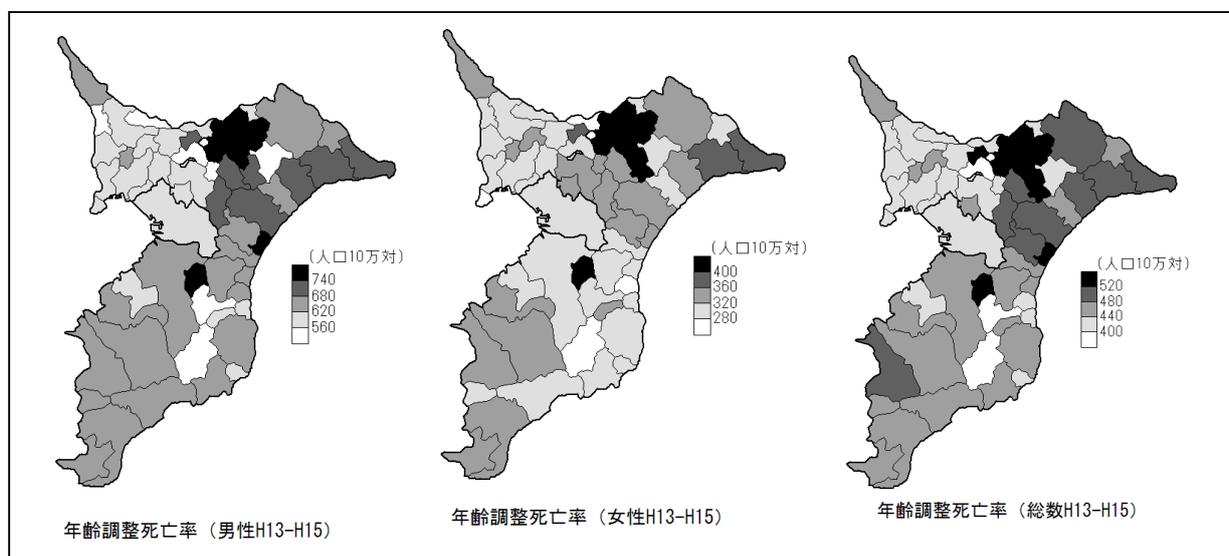


平成16～18年

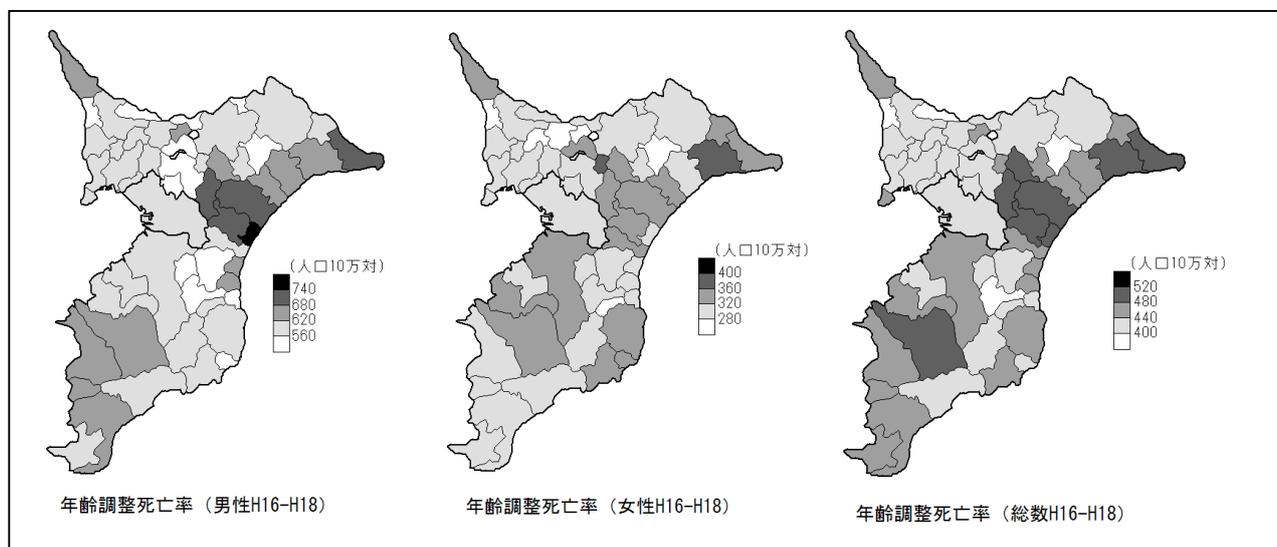


3 市町村別年齢調整死亡率（総死亡）

平成13～15年



平成16～18年



統計表（別のエクセルファイルになっています）

表 1 性・年齢階級別自殺死亡数（全国 年次推移）

表 2 性・年齢階級別自殺死亡数（千葉県 年次推移）

表 3 自殺粗死亡率・年齢調整死亡率・SMR（全国・千葉県 年次推移）

表 4 自殺の性・年齢階級別死因順位（全国・千葉県 年次推移）

表 5 性・年齢階級別死因割合（千葉県・H14～H18 合計）

表 6 保健所別自殺粗死亡率（人口 10 万対）の年次推移

表 7 保健所別自殺死亡割合の年次推移

表 8 保健所別自殺年齢調整死亡率（人口 10 万対）・SMR

表 9 市町村別自殺年齢調整死亡率（人口 10 万対）

表 10 市町村別自殺 SMR

表 11 H16～H18 年齢階級別合計死亡数・粗死亡率（平均死亡数／H17 人口）

表 12 H16～H18 の自殺死亡合計における年齢階級別死亡割合

表 13 警察統計・自殺死亡数（全国・千葉県）

表 14 警察統計・職業別自殺死亡数（全国・千葉県）

表 15 警察統計・原因別自殺死亡数（全国・千葉県）

表 16 完全失業率

表 17 健康関連 QOL 得点